

【はじめに】

アリウム・コワニー (*Allium cowanii*, 以下、コワニーという) は南ヨーロッパ、北アフリカ等の地中海沿岸地域原産のユリ科球根植物である。本県那賀町は西日本一の産地であり、ハウス栽培で主に1～3月に出荷されているが、単価の高い年内から出荷できる栽培技術の確立が望まれていた。

一方、球根の温度処理によるコワニーの開花に関する研究は古平ら(園学雑. 69: 214 - 220. 2000)によって検討されているが、球根の温度処理方法がやや複雑であることから、より簡便な温度処理で年内に切り花出荷が可能な方法を検討した。

【試験方法】

2014年4月上旬に掘り上げ調製した球根(3.5g以上)に、休眠打破の目的で30℃処理を2カ月間(5月1日～7月1日)、その後花芽分化促進のため20℃処理を定植まで実施(早植7月1日～8月28日、標準植7月1日～10月1日、以下、温度処理区という)した。また5月1日から定植まで温室内で球根を貯蔵(以下、なりゆき区という)し、対照区とした。

定植は早植を8月28日に、標準植を10月1日に行い、植付は10cm角の6穴フラワーネットで2列定植毎に1列空(1㎡当たり約67球)とした。

【試験結果】

定植前の球根の状態をみると、温度処理区は休眠が打破され、発根部の肥大が確認された(図1)が、なりゆき区では掘上直後の様子から変化が見られなかった。

栽培試験の結果、温度処理区では早植、標準植とも出芽が早く、良く揃い(表1)、その後も順調に生育した。また温度処理区の開花はなりゆき区より1カ月以上早まり、年内採花が可能となった(表2)。

【おわりに】

以上のことから、球根を30℃2カ月、その後20℃2カ月の温度処理を行い、8月末頃から定植すれば、年内に1球当たり2本程度の採花ができることが明らかとなった。



図1 温度処理後の球根 (発根部が肥大)

表1 定植時期と球根の温度処理が出芽に及ぼす影響

処理区	10%以上 出芽日	50%以上 出芽日	90%以上 出芽日
早植 温度処理	9月1日	9月3日	9月8日
早植 なりゆき	9月30日	10月11日	10月25日
標準植 温度処理	10月6日	10月8日	10月12日
標準植 なりゆき	10月12日	10月16日	11月2日

表2 定植時期と球根の温度処理が開花に及ぼす影響

	平均採花日	開花株率	9g以上の販売可能切り花			
			切り花長	重量	可販率※	
早植- 温度処理	第1花	11月20日	100%	52 cm	11.2g	89%
	第2花	12月11日	100%	65 cm	12.3g	89%
	第3花	1月4日	97%	62 cm	11.3g	84%
	第4花	1月27日	50%	57 cm	11.6g	28%
	第5花	2月8日	8%	49 cm	10.0g	33%
早植- なりゆき	第1花	1月7日	100%	57 cm	14.6g	63%
	第2花	2月4日	94%	67 cm	16.1g	100%
	第3花	2月16日	91%	64 cm	14.3g	88%
	第4花	2月26日	64%	56 cm	11.5g	62%
標準植- 温度処理	第1花	12月11日	100%	50 cm	10.0g	22%
	第2花	1月9日	100%	57 cm	10.9g	63%
	第3花	2月7日	72%	54 cm	11.1g	68%
	第4花	3月13日	22%	52 cm	12.6g	50%
標準植- なりゆき	第1花	1月29日	100%	58 cm	14.4g	92%
	第2花	2月14日	100%	63 cm	15.1g	85%
	第3花	2月21日	86%	59 cm	12.1g	86%
	第4花	3月7日	67%	56 cm	10.6g	23%

※ 9g以上の販売可能切り花/総採花本数で算出

(農産園芸研究課 野菜・花き担当 近藤 真二)